

市民意向調査結果について

	市民意向調査で把握できた内容	課題等
1	P132・133 身体 Q18-2、18-3 おもな支援者について、配偶者と回答した方の割合は引き続き多いものの、6年前と比較し、子どもと回答した方の割合が増え、支援者の年齢層についても、30歳代と40歳代が増加した。	障害者の高齢化が進んでおり、親の介護や支援を行う方が増えている。
2	P137 精神 Q17 現在の障害福祉サービス等での困りごとのうち「制度のしくみがわからない」が6年前より増加。なお、身体障害者・知的障害者においても「制度のしくみがわからない」と回答した方の割合は多い。	近年における障害福祉関連法の施行・改正により、多様なサービス等が整備されている。
3	P144 身体 Q25-1 回答のうち、通勤や通学をするときに、付き添いがないと通えないと答えた方の割合が4割以上を占めている。	引き続き、移動に関するサービスのニーズが高い。
4	P147 知的 Q19 希望する将来の暮らしにおいて、グループホームを望む声が6年前よりも増加。	支援者・家族の高齢化により、将来的なグループホーム利用に関するニーズが増加した。
5	P166 精神 Q34 市に望む施策として災害や緊急時の対応体制強化が6年前よりも増加している。	近年、各地で大規模な自然災害が発生していることから、障害のある方の防災に対する意識が高まっている。